

鹿児島大学

No.29

同窓会連合会報



秋空に映える桜島を背景にカッターの帆走性能実験

特別
寄稿

砂防、防災に関わる技術者の育成

地頭菌 隆（農学部教授）

鹿児島大学OB学部対抗ゴルフ大会と

全学部同窓会懇談会の関係

（魚水会ゴルフ大会から鹿大全学部ゴルフ対抗戦へ）

（水産学部同窓会魚水会）

鹿児島大学同窓会連合会

2020年1月

鹿児島大学同窓会連合会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 各学部同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員をもって組織する。

各学部同窓会

- 鹿児島大学法文学部同窓会
- 鹿児島大学教育学部同窓会
- 鹿児島大学理学部同窓会南明会
- 鹿児島大学医学部同窓会
- 鹿児島大学歯学部同窓会
- 鹿児島大学工学部同窓会
- 鹿児島大学農学部あらた同窓会
- 鹿児島大学水産学部同窓会魚水会
- 鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

- 鹿児島七高同窓会

第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 各学部同窓会からそれぞれ1名
- (3) 代表幹事 1名
- (4) 幹事 各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ1名
- (5) 評議員 各学部同窓会からそれぞれ4名
- (6) 監事 若干名
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

- 第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
 - 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
 - 4 幹事は本会と各学部同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
 - 5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。
 - 6 監事は業務及び会計の執行状況の監査を行う。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

- 第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。
- 2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。
 - 3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

- 2 総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。
 - (1) 役員を選任に関する事項
 - (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
 - (3) 予算及び決算に関する事項
 - (4) 会則の改廃に関する事項
 - (5) その他会長が必要と認めた事項
- 3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。

4 総会は、第1項に規定する役員の過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事をもって組織する。

- 2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。
 - (1) 総会に付議すべき事項
 - (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

- 2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、各学部同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、鹿児島大学総務部総務課内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成30年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成31年4月6日から施行する。

第29号会報（令和2年1月発行）に寄せて

同窓会連合会 会長 富永 茂人



「令和」の時代に入り、「進取の気風あふれる総合大学」を目指している母校国立大学法人鹿児島大学は今年度創立70周年を迎えました。鹿児島大学9学部の同窓会の連合体である「同窓会連合会」も、卒業生・大学院修了生を合わせて11万人を超える全国のOB、OGの皆様のご協力を得て、特に人材育成や社会貢献の面で、創立71年目に入る鹿児島大学と連携していきたいと考えています。

同窓会連合会会長に就任後の10か月の間、江口前会長（現・名誉会長）の代の「同窓会連合会」の活動を比較的順調に引き継いできたのではないかと思います。

まず鹿児島大学OGの一層の活動・活躍（同窓会への出席やOGの組織化の促進）を支援するために7月13日（土）に「鹿児島大学OGと同窓会連合会との意見交換会」を行い、魅力的な同窓会にするために「OGと連携した活動ができやすい学部同窓会」から先行し、それが連合会全体の活動に緩やかに広がるよう取り組んでいくことになりました。次に、「中南米研究会」と「海外研究会」のOB、OGが中心になって、2015年に始めていただいた「キャリア支援セミナー」（鹿大就職支援センター主催）は、「同窓会連合会」が協力して継続して実施しており、今年度も「きばいやんせ、鹿大生2019!」が12月7日（土）に「理学部同窓会南明会」がコーディネーターとなり、話題提供者を各学部同窓会から推薦して「鹿児島大学学習交流プラザ」で行われました。

一方、近年は各学部同窓会とも、特に若い卒業生の同窓会活動への参加が減少してきており、高齢化の影響が表れ始めています、先に述べた「OGとの意見交換会」でも出されましたが、同窓会としては若い卒業生も積極的に参加できるように活動の内容を魅力あるものに変えていく必要があります。「同窓会とはどういう活動をしているのか」などについてSNSを活用した拡散と情報共有を図る必要もあります。一方では、「先輩→後輩」という縦系列の活動から、卒業年次前後の横の集まりなど、若い卒業生の理解を広げる活動が必要です。

鹿児島大学同窓会連合会は歴史や会員数が異なる9学部同窓会の連合体ではありますが、各学部の同窓会活動を基礎にして、鹿児島大学の全卒業生が「鹿大卒業生」として一体感を持てるような「連合会」と認知されるような活動を行っていききたいものです。そのために、皆様の叡知を結集し魅力的な組織として発展させ、そして、71年目以降の鹿児島大学の教育、研究、地域貢献活動をバックアップしていきたいものです。是非、卒業生全員のご協力をお願いいたします。

目 次

| | |
|----------------------|----|
| 第29号会報（令和2年1月発行）に寄せて | 1 |
| 学長挨拶 | 2 |
| 鹿児島大学の近況 | 4 |
| 各学部同窓会活動報告 | 8 |
| 特別寄稿（農学部、水産学部） | 17 |

学 長 挨拶

鹿児島大学長 佐野 輝



鹿児島大学同窓会連合会会員の皆様方におかれましては、日頃より本学の教育・研究並びに大学運営等に関しまして、ご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。また、鹿大「進取の精神」支援基金につきましては、各同窓会会員の皆様方から多大なご支援を頂き、厚くお礼申し上げます。

昨年12月12日（木）に鹿児島大学創立70周年記念式典、シンポジウム及び祝賀会を執り行いました。ご多忙にもかかわらず、ご臨席を賜りました皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。皆様方からのご支援の御蔭をもちまして、盛会裡に執り行うことができましたこと、心から感謝申し上げます。

さて、昨年4月1日付けで文部科学大臣より鹿児島大学長に任命され、10ヶ月が経過しました。鹿児島大学は、9つの学部と9つの大学院研究科があり、学部学生と大学院生、教職員、非常勤等を含めると1万6千人に及びます。この人数は鹿児島県民の人口の百分の一に当たり、鹿児島における本学の重さをひしひしと感じています。学長就任後、令和元年6月から12月にかけて様々な業務の合間を縫いまして、30箇所を超える本学の附属施設等を訪問いたしました。

全学の施設では、国際島嶼教育研究センター奄美分室を訪問し、多彩な研究者が奄美ならではの研究に精を出す姿を見ました。また、大崎活性化センターでは、共同獣医学部附属動物病院大隅産業動物診療研修センターの活躍ぶり、地震火山地域防災センター南西島弧地震火山観測所では、24時間態勢での観測活動を見ました。総合研究博物館では、多くの資料の蓄積と研究の現状を見ることができ、入来牧場内にある本学が所有する1m光赤外線望遠鏡と共に国立天文台との共同運用のVERA入来観測局では、銀河の観察現場を見て宇宙への夢をかき立てられました。

学部の施設では、農学部附属焼酎発酵学教育研究センター（北辰蔵）の焼酎・発酵学教育・研究の現場、農学部附属農場や家畜施設、古くからの地元の柑橘系の品種が残る唐湊果樹園、マンゴーなどの品種改良で知られる指宿植物試験場、南西諸島の貴重な遺伝資源である口之島野生化牛等を飼養する入来牧場など、農業生産に資する多くの施設を見ました。また、暖地演習林としての特徴を持つ農学部附属高隈演習林の実態を見ました。

近隣の幼稚園、保育園の芋掘り園外活動に貢献する教育学部寺山自然教育研究施設も見ました。水産学部の附属練習船かごしま丸や南星丸、長島町にある臨海実験施設東町ステーションや与次郎の錦江湾ステーションでは魚の養殖などに関わる教育研究も実際に目にできました。

この他、附属図書館には島津家関連の書籍コレクションの「玉里文庫」をはじめ、貴重書が数多く保存され、中には文化財級の貴重な文書もあることに感激し、保存や公開の責任を感じました。また、特別支援学校をはじめ附属学校・園の現場を訪問し、その運営の実態を目にし、現場感覚を養う上で非常に参考になりました。その他にも、唐湊の学生寮は内部まで見て新たな計画が必要であることを実感しました。

多様な地域性、生態系に富んだ鹿児島という南北600kmにわたる得がたいキャンパスを持っていることは本学の魅力です。すなわち、本学のフィールドは全国一多くの有人離島を抱えており、附属病院を有する大学の機能としては、離島・へき地医療への取組も重要であると考えています。県内の有人離島には医師が常駐しない島も多数存在し、医学部・歯学部では訪問実習など、教育的立場からの診療活動を学べるよう臨床実習を展開しています。また、附属病院では、あらかじめ医師が作成した指示書をもとに自分の判断で特定行為を行えるようになる「特定行為に関わる看護師の研修」をいち早く開始して離島・へき地医療に貢献するよう努めています。この他、地域に立脚した医学研究にも力を入れ進めています。本土最南端の鹿児島は感染症にも地域性があり、特に本学はHTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス）の研究が盛んです。隣県の熊本大学はHIV（エイズ）の研究で知られることから、昨年4月に共同で「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」を設立しました。国立大学法人間での共同研究センターの設置を文部科学省が認めたのは初めてのことです。

共同獣医学部においては、産業動物に対する教育・研究・診療に強みを持つ本学と、ペットなど伴侶動物に強みを持つ山口大学が共同で獣医学部を形成し、双方向遠隔講義システムを使って授業を行っています。後述する「鹿児島大学の近況」にも紹介されていますが、柴山昌彦文部科学大臣（当時）が昨年7月26日に本学を視察された際、「遠隔授業等の貴重なモデルになる」と述べられ、本学で行われている取組を重要視していただきました。

本学には地域に立脚した誇れる施設・組織が数多くあることを各施設訪問により、肌で感じることができました。「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点・鹿児島大学」をスローガンとし、鹿児島大学だからこそといった強み・特色のある研究や教育を世界に向けて、発信したいと思っております。地域に根ざしつつ、世界に羽ばたき、ひかり輝く鹿児島大学へと発展するために教職員一同気持ちを新たに組み立ててまいります。

今後ともご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます

最後に、同窓会連合会の皆様方のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

鹿児島大学の近況

—進取の気風あふれる総合大学—

(2019年5月から2019年10月までのトピックス)

○鹿児島大学 OB ゴルフ大会実行委員会が寄附（5月13日）

5月13日、鹿児島大学 OB ゴルフ大会実行委員会委員長の江口正純氏（鹿児島大学同窓会連合会前会長）が学長室を訪れ、ゴルフ大会参加者からの寄附金（15万円）を佐野輝学長に贈呈しました。寄附金は、4月21日に同委員会主催で開催された第38回 OB ゴルフ大会の参加者194人から母校のために使ってほしいと集められたものです。

受け取った佐野学長は、「多くの卒業生が母校を思い続けてくださっていることに感謝申し上げます」と謝辞を述べました。

○国際島嶼教育研究センター奄美分室移転見学会・講演会が行われました（6月1日）

6月1日、国際島嶼教育研究センター奄美分室の移転見学会および移転記念式・講演会が奄美市で開催されました。これは、2019年3月末に、同センター奄美分室が、奄美市名瀬柳町から港町の紘会館6階に移転したことを記念し、開催したものです。

本学の佐野輝学長、岩井久理事、河合溪センター長らが出席し、朝山毅奄美市長らとともに、新装になった奄美分室を見学しました。その後、奄美観光ホテルで記念式典と記念講演会が行われました。学長の挨拶で始まった記念講演会には約70名の参加者があり、皆さまは熱心に耳を傾けておられました。

夜は懇親会を行い、今後の奄美群島と鹿児島大学の連携について大いに議論が盛り上がりました。

○佐野輝学長らが「鹿児島大学イクボス宣言」！（7月25日）

鹿児島大学では、4月に学長に就任した佐野輝学長をはじめ、役員及び部局長等の管理監督者が一丸となって、自らも仕事と私生活のバランスを取り、働きやすい職場環境の形成に努めるため、このほどイクボス宣言を行いました。

イクボスとは、職場で共に働く部下・スタッフのワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）のことです。本学は鹿児島市による「鹿児島市イクボス推進同盟」の加盟企業であり、また、鹿児島県による「鹿児島県女性活躍推進宣言企業」としても登録されています。

本学は、引き続き教職員の働きやすい環境の整備に努めてまいります。

○柴山昌彦文部科学大臣が鹿児島大学を視察されました（7月26日）

7月26日、柴山昌彦文部科学大臣が鹿児島大学を視察されました。

初めに、柴山大臣は、学長室で、佐野輝学長や理事と懇談され、本学の概要や教育改革、研究・産学連携状況等についての説明を受けられました。

懇談後は、最初に、共同獣医学部において、小動物に関して強みを持つ山口大学と産業動物に関して強みを持つ鹿児島大学が、共同で教育課程を編成し、お互いの強みを活かした授業・実習を行うための双方向遠隔講義システムを使った講義を視察され、鹿児島大学学生と交流された後、柴山大臣ご自身が本システムを使って、山口大学学生とも交流され、本取組は遠隔授業等の貴重なモデルになると述べられました。

次に、総合動物実験施設において、本施設が、米国 AAALAC International（国際実験動物ケア評価認証協会）の国際認証を受けていることについて説明を受けられた後、ミニブタを使った実習（剖検等）について説明を受けられました。

続いて、焼酎に関する教育研究及び発酵食品、発酵文化などの鹿児島における発酵学の中核機関としての機能を担う農学部附属焼酎・発酵学教育研究センターにおいて、鹿児島県産の焼酎の特徴や学生自らが企画デザインした焼酎ラベルの作成について説明を受けられ、実習室では、麴室、蒸留器などの焼酎製造設備や学生の実習風景等を熱心にご覧になりました。

最後に、附属中央図書館において、島津久光及び玉里島津家の旧蔵書であり、近世薩摩の學術の全体像をうかがうことができる貴重な「玉里文庫」をご覧になりながら、玉里島津家の由来や「玉里文庫」の文化財的価値及び保管状況等の説明に興味深く耳を傾けられました。

視察後の大臣記者会見では、「地域の特性を活かした教育研究活動に触れ、国立大学の特色ある取組を推進する意義、地方創生にも大変重要な役割を果たすということを実感いたしました」と述べられました。

○ベトナム社会科学院にて記念式典が開催されました（8月23日）

8月23日、ベトナム社会科学院において、「ベトナム社会科学アカデミー附属ベトナム・東アジア研究交流・人材協力センター及び鹿児島大学稲盛アカデミー事務所設立10周年記念式典」が開催されました。

第一部の記念式典では、ベトナム・東アジアセンター所長チャン・クワン・ミン博士による「ベトナム東アジア研究交流・人材協力センターの10年運営業績についての報告」と題した基調講演、また、稲盛アカデミーベトナム事務所スタッフ（稲盛アカデミー客員教授）のホー・ホアン・ホァー博士による「稲盛アカデミーベトナム事務所10年運営総括」と題した基調講演をいただきました。また、本学を代表して、越塩俊介理事（総務担当、前稲盛アカデミーベトナム事務所長）が挨拶しました。

第二部の学術セミナーでは、山口明伸教授（稲盛アカデミーベトナム事務所長）による「鹿児島大学稲盛アカデミーの活動」に関する発表、劉美玲講師（稲盛アカデミー）による「アメーバ経営」に関する発表、それから、海外研修「進取の精神海外研修 in ベトナム」受講生による「鹿児島と鹿児島大学」に関する発表などを行ないました。

○韓国で開催された日本留学フェアで鹿児島大学ブースを出展しました（9月29日）

9月29日、韓国のソウルで開催された日本留学フェアに本学職員が参加し、鹿児島大学ブースを出展しました。

本フェアは、日本留学を志す韓国の学生が適切な進学先を選択し、かつ実りある留学を達成できるようにするため、我が国の留学制度及び高等教育に関する情報を提供し、我が国への留学の促進を図る目的で独立行政法人日本学生支援機構が主催しています。

セミナー会場では日本学生支援機構による日本留学の概要説明や帰国留学生の体験談の発表等がおこなわれ、本学はブース会場において学校案内や募集要項等の資料展示及び配付、教育内容や入学試験に関する個別相談を実施しました。ソウル会場には3,080名が来場し、本学ブースへは約80名が来訪しました。本留学フェアを契機に、本学への留学希望者の増加が期待されるところです。

○『鹿大「進取の精神」支援基金』支援会第5回役員会を開催しました（10月2日）

10月2日、『鹿大「進取の精神」支援基金』支援会の第5回役員会が開催されました。『鹿大「進取の精神」支援基金』は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーション機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としています。

はじめに、岩崎芳太郎鹿児島県商工会議所連合会会長から開会の挨拶があり、続いて、鹿児島大学から基金の募金状況及び平成30年度事業報告と令和元年度事業計画の説明がありました。

活動報告として、本基金の学生海外派遣事業で6ヶ月間、タイへ留学した法文学部4年の馬本寛子さんから、「東南アジアにフォーカスした、鹿児島県の企業の海外進出を促進するための情報収集」や「鹿児島のみに東南アジアに興味を持ってもらうための、東南アジアの日本人情報収集」など、留学の目的を達成するために行った、タイで人材事業を行う企業でのインターンシップや個人活動としてのライター活動などを通じて得た多岐にわたる情報について報告がありました。

続いて、佐野輝学長から鹿児島大学の現状と取組みとして、学長が所信として掲げている「南九州から世界へ羽ばたくグローバル教育研究拠点・鹿児島大学」について、南九州・南西諸島を中心とした地域が抱える課題に対処するための「強み・特色を生かした教育研究の強化策」や大学院を含めた入試・教育制度改革で国際的に活躍できる人材を育成するための「学生の国際化、教育体制の国際標準化」など、具体例を基に説明がありました。また、最後に本学の近況と当面の課題について説明がありました。

○ベトナムで開催された日本留学フェアに鹿児島大学ブースを出展しました（10月5日）

10月5日にベトナムのホーチミンで開催された日本留学フェアに、本学教職員が参加し、鹿児島大学ブースを出展しました。

本フェアは、日本留学を志すベトナムの学生が適切な進学先を選択し、かつ実りある留学を達成できるようにするため、我が国の留学制度及び高等教育に関する情報を提供し、我が国への留学の促進を図る目的で独立行政法人日本学生支援機構が主催しています。セミナー会場では日本学生支援機構による日本留学の概要説明や帰国留学生の体験談の発表等が行われ、本学はブース会場において学校案内や募集要項等の資料展示及び配付、教育内容や入学試験に関する個別相談を実施しました。ホーチミン会場には約1,700名が来場し、本学ブースへは約50名が来訪しました。

本留学フェアを契機に、本学への留学希望者の増加を目指しています。

○鹿児島県からハゼ科魚類の2新種を発見～アマミコイソハゼとホデリイソハゼと命名～（10月16日）

鹿児島大学総合研究博物館が行っている鹿児島県の魚類相調査の過程で、ハゼ科魚類の2新種が発見されました。総合研究博物館で研究を行っている鹿児島大学大学院連合農学研究科の藤原恭司さんの調査により、これら2種はアマミコイソハゼ *Eviota amamiko* とホデリイソハゼ *Eviota perspiculla* と命名されました。

アマミコイソハゼは、屋久島、加計呂麻島、西表島から採集された3標本に基づき記載されました。体長1 cmほどの小型種で、黄色味がかかった体色に逆Y字模様があるのが特徴です。標準和名アマミコは琉球列島の神話に登場するアマミキヨという神の奄美群島での呼び名「アマミコ」に由来します。学名の *amamiko* もそれが由来です。

ホデリイソハゼは、甑島、南さつま市、南九州市、種子島、奄美大島、加計呂麻島から採集された22標本に基づき記載されました。体長2 cmほどの小型種で、第1背鰭が伸長しないことや同背鰭の基底部に2つの白色斑があることが特徴です。標準和名ホデリは日本神話の古事記に登場する神ホデリノミコト（火照命）に由来します。海の幸を獲って暮らしていたため、別名海幸彦とも呼ばれます。ホデリノミコトは古代の薩摩・大隅地域の住民として位置づけられた隼人の祖先としても神話に描かれています。学名の *perspiculla* は眼鏡（メガネ）の意で、第1背鰭基部の2つの白色斑が眼鏡を連想させることに由来します。

この報告は2019年10月12日付で日本魚類学会が刊行する国際誌 *Ichthyological Research*（イクティオロジカル リサーチ）電子版に掲載されました。

○ベルリンの壁崩壊30周年特別講演会を開催しました（10月31日）

10月31日、ベルリンの壁崩壊30周年特別講演会を開催しました。

今年はベルリンの壁崩壊から30年という節目の年にあたります。この節目において、本学では法文学部が中心となり、記念企画を実施しました。10月11日開幕の「ベルリンの壁崩壊30周年記念パネル展」に続き、10月31日には大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館のヴェルナー・ケーラー総領事と元朝日新聞ベルリン支局長・国際本部長の亘理信雄（わたり・のぶお）氏をお招きして特別講演会を開催しました。

講演に先立ち、ケーラー総領事と亘理氏は、法文学部生との懇談を行いました。懇談に参加したのは、ミュンヘン大学（ドイツ）への留学経験者や留学予定者など8名です。学生らははじめ緊張した様子でしたが、にこやかに尋ねる総領事に答える形で、ドイツで気づいた日本とドイツの生活や習慣の違いなどを語りました。また総領事に対して、日本の生活で困ったことや、総領事のご専門である歴史を学ぶ意味などを質問するなど、和やかな懇談となりました。

その後、ケーラー総領事と亘理氏は佐野輝学長を表敬訪問しました。

特別講演会は法文学部にて実施され、学生・一般市民を含む84名が参加しました。中島大輔法文学部教授による挨拶の後、亘理氏が「ベルリンの壁崩壊を目撃して」と題し講演を行いました。亘理氏は朝日新聞社に入社後、鹿児島支局での勤務を経て、1985年から中東キプロス・ニコシアに駐在。1989年11月9日、派遣先のベルリンで壁の崩壊を目撃しました。歴史的な瞬間を目の当たりにした亘理氏の実体験に基づく話に、参加者らは熱心に耳を傾けていました。

続いてケーラー総領事による講演「30年前の壁崩壊と今日のドイツ—切り離された国が再び一つになる過程」が行われました。総領事は壁崩壊後の統一ドイツの歩みについて、所得や生産性、失業率、出生率など具体的な資料をもとに、いかにこの30年で東西の格差が縮まっていったか、また今なお残る心の「壁」を利

用して極右が旧東ドイツで勢力を伸ばしている状況を解説されました。

○教員の受賞等

- ① 教育学部の池川教授が「第75回日本芸術院賞」を受賞（6月24日）
- ② 大学院理工学研究科の池田徹教授、共同獣医学部の遠藤泰之教授が「平成30年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰」を受賞（8月1日）
- ③ 農学部の寺本行芳准教授が「日本砂丘学会賞奨励賞」を受賞（9月19日）
- ④ 鹿児島大学の客員教授鮫島吉廣氏が「第52回 MBC 賞」を受賞（9月24日）
- ⑤ 産学・地域共創センターの牧野暁世特任助教が「2019かごしまの新特産品コンクール」で鹿児島県知事賞を受賞（10月8日）

○海外の大学等からの学長表敬訪問

- ① 中国の中南大学副学長一行（5月24日）

〈鹿児島大学ホームページから転載〉

鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーション機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実に努めることを目的としております。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Webサイトをご覧ください。

本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

鹿大「進取の精神」支援基金 Web サイト <http://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>

古本募金のご案内

鹿児島大学古本募金とは、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が本学に寄附される取り組みです。寄附金は、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けた整備・充実に役立てられます。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Webサイトをご覧ください。

鹿児島大学古本募金 Web サイト <https://www2.kishapon.com/kagoshima-u/>

遺贈によるご寄附のご案内

本学では、所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈（遺言によるご寄附）したいとお考えの方に対し、遺言信託業務を取り扱う提携信託銀行をご紹介します。提携信託銀行では、遺言書作成のご相談から遺言内容の執行まで、専門のスタッフがサポートいたします。詳細につきましては、Webサイトをご覧ください。

本学への遺贈をご希望される場合は、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、提携信託銀行へ直接お問い合わせください。

【提携信託銀行（五十音順）】みずほ信託銀行 鹿児島支店／三井住友信託銀行 鹿児島支店

遺贈によるご寄附 Web サイト <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/cat1353/izou.html>

税制上の優遇措置について

本学へのご寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。また、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄附金税額控除の対象として指定している場合、個人住民税の税額控除が受けられます。なお、相続税申告期限内に遺贈により本学にご寄附いただいた財産については、相続税はかかりません。詳細につきましては、Webサイトをご覧ください。

お問い合わせ先

鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係
TEL 099-285-3101／FAX 099-285-7034
E-mail s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

各学部同窓会活動報告

法文学部同窓会

1. 令和元年度（第67回）法文学部同窓会定期総会開催

令和元年11月16日（土）城山ホテル鹿児島にて、高津学部長、学部の先生方をお招きして、令和元年度（第67回）法文学部同窓会定期総会を開催しました。総会に先立ち、陶山賢治氏（MBC開発社長）を講師としてお招きし、「長い午後～超高齢社会とどう向き合うか」という演題でご講演いただきました。

総会は仮屋会長の挨拶のあと2018年度決算については承認。同窓会の財務状況が非常に厳しいことから同窓会費の値上げの提案が事務局からあり、侃々諤々の議論の末、会則の改正、2019年度の予算も承認になりました。また、「鹿児島大学法文学部同窓会教育研究助成基金」派遣学生2名による体験発表もありました。

懇親会は江口名誉会長の乾杯でスタートし、恒例の出席者全員による近況報告があり女性会員及び若手会員の報告で大いに盛り上がりました。宴もたけなわの頃、川井田氏の巻頭言で「北辰斜めに」を全員で肩を組みながら斉唱し、最後に成清副会長の「万歳三唱」でお開きとなりました。



懇親会



北辰斜めに

2. 鹿大法文学部同窓会福岡支部同窓会、法文学部同窓会関西地区支部同窓会開催

- ① 令和元年10月12日（土）午後6時30分から博多区博多駅東の「八仙閣本店」において福岡支部の同窓会を開催。平成30年度が台風のため中止となり、2年ぶりの開催でした。

報告事項として、令和2年2月15日に開催予定の「鹿児島大学同窓会連合会福岡支部同窓会」について田中事務局長から概要の説明がありました。

- ② 令和元年11月9日（土）13時から大阪弁護士会館において関西地区支部の同窓会を開催。久々の法文学部単体の同窓会で人数は少なかったのですが、自己紹介等にたっぷり時間が取れ内容が濃く、大いに盛り上がりました。

3. 第13回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペ開催

令和元年10月19日（土）第13回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。当日は天気にも恵まれ、白熱したプレーが展開されました。初参加の上健二郎さんが優勝、ベストグロスも初参加の清永裕介さんでした。成績は以下のとおりです。

| | | | |
|--------|-----------------------|-----|------|
| 優勝 | 上 健二郎（H5年、法文学部経済学科卒） | ネット | 70.8 |
| 2位 | 片平 公成（H9年、法文学部経済学科卒） | ネット | 71.2 |
| 3位 | 宮原 孝文（S53年、法文学部経済学科卒） | ネット | 71.6 |
| ベストグロス | 清永 裕介（H元年、法文学部法学科卒） | グロス | 78 |

令和元年度教育学部同窓会総会・懇親会の開催

教育学部同窓会会長

松 永 郁 男

去る令和元年8月4日（日）ジェイドガーデンで教育学部同窓会定期総会と懇親会が開催された。

総会の前に臨時理事会が開かれ、総会に諮るための役員改選案が了承された。新役員案は、石神正明会長が退任され後任に松永郁男副会長が昇任する。副会長には新しく久保正和氏が加わり、留任の文城テツ子氏、東寛治氏の三人体制で行うこと等が了承された。（同窓会連合会の代表幹事は12月まで松永が務め、後は東寛治副会長がその任に当たる。）また、同窓会事務局を担当する幹事の北原稔氏が退任され、新しく立山龍男氏の就任が了承された。

総会は10時から事務局野間さんの進行で始まった。亡師亡友に1分間の黙祷を行い、石神正明会長の開会の挨拶があった。会長は挨拶の中で同窓会設立20周年という記念すべき昨年を振り返りながら、それらを今後に生かしていくことを期待された。その中で、特に教育学部同窓会の歌「我が友よ」を作成してもらったことを挙げ、「20周年記念大会で世界的指揮者下野竜也氏を招いて鹿児島大学オーケストラの指揮をしながら記念講演をして頂いたことで、記念大会が盛り上がった。あの気運を持続し、今後同窓会を大木にすることが大切である」と挨拶された。

開会行事では、上谷教育学部長、前田県教育委員会教育次長の来賓祝辞の後、平成11年から20年間理事を務められた有馬暢洋氏に感謝状の贈呈があった。

続いて協議に入り、平成30年度事業報告、決算報告、令和元年度運営基本方針、総務・広報・研修の事業計画それに伴う予算案、人材活用事業の報告（昨年は実績なし）、昨年から設けた「運営協力金」の要請文、昨年頂いた方のご芳名の報告、新年度役員改選案等が原案通り承認された。

総会の後、鹿児島大学前学長前田芳實先生が「鹿児島大学の教育、研究、社会貢献、国際化」と題して講演された。プロジェクターを使いながら大学の教育・概念・貢献について話され、グローバルな人材を養成していることについて縷々説明された。

「進取の精神」を持った学生支援、大学の強みを生かした学術研究、大学の特色である研究を生かした研究、グローバルな視点を有する地域の人材育成、有能な語学教育のグローバルランゲージの設置、グローバル教育に当たる教育の展開等、これからは地域のニーズに応じた社会人教育や地域との連携を推進していきたい旨述べられた。

講演終了後、今年度懇親会当番（昭和53年卒）の進行で懇親会が始まり、懇親の杯が交わされ、「我が友よ」を斉唱するまで賑わった。



総会の会長挨拶



有馬暢洋氏へ感謝状贈呈



懇親会風景



「我が友よ」を肩組んで斉唱

ご挨拶

理学部同窓会南明会関東支部
会長 古川征弘

鹿児島大学同窓会連合会関係者の皆様におかれましては、ご活躍、ご健勝のこととお慶び申し上げます。関東地方および東北地方を襲った台風と、台風の余波による水害が生々しい傷跡を残す10月26日（土）に、第4回理学部関東同窓会総会・懇親会を無事開催できましたことを慶び、皆様のご支援ご協力に厚く御礼申し上げます。

理学部関東同窓会は2009年に設立後、2010年に第1回総会を開催し、その後3年に一度のペースで開催して、早や10年が経過しました。今まで本会をリードしていただいた満田前会長が2年半前に突然倒れられ、この度私、古川（昭和44年化学科卒）が新たな会長に就任することとなりました。また、理学部同窓会が設立50周年を記念して“南明会”と称することになったことから、本会も「理学部同窓会南明会関東支部」と名称を変更することにいたしました。今後の10年は、理学部本部だけでなく関東地区の他の学部同窓会とも連携しながら、鹿児島大学へ我々は何ができるか、世話人一同が知恵を出して行きたいと思っています。また、関東支部同窓会の活動情報の発信や、新卒業生の方々への会員募集も積極的に行っていきたいと考えていますので、今後とも皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

来年の秋には、全学部からなる同窓会連合会の総会・懇親会が関東で開催されますので、皆様是非ご参加下さい。

最後に、皆様のご健康と益々のご活躍を願ってご挨拶とさせていただきます。



理学部同窓会南明会関東支部 総会・懇親会
(令和元年10月26日 三州倶楽部にて)

医学部同窓会

会員の高齢化について

医学部医学科同窓会鶴陵会 会長 高松 英夫

昭和18年に県立鹿児島医学専門学校に開校されてから、医学部医学科も創立76年を迎えます。昭和23年卒業の第1期生（鶴陵会通算）も93歳を迎えられ、お亡くなりになった方も多くなりました。新たに卒業してくる若者の同窓会離れも深刻ですが、先輩会員の対処も重要になってきました。本会よりも歴史ある教育学部、農学部などでは既に経験されていることではあると思います。鶴陵会では各学年に評議員を一名置くことになっていますが、会員の高齢化のため評議員1名を確保することも困難な学年も出てきています。特に鹿児島県内居住の会員がおられれば良いのですが、県外の先生方が主体となりますと、さらに大変になります。現在、鶴陵会の法人化準備をしていますが、その際に参考にした九州大学医学部同窓会の定款を見てゆきますと、「年度別の選出は卒業後56年までとする」とされており、年齢80歳を越える学年（卒後56年以上経過学年）は、代議員を選出しないことになっています。現在も空席になっている学年がありますので、どう対応すべきか考えておりましたが、これは良いアイデアだと思いました。しかしながら、80歳を過ぎてもなお元気で活動されている先生方もあり、一様に評議員は置かないとすると、自分たちはまだ頑張っているのに、評議員を置かせないのはけしからん、と反論されるかもしれないと考え、鶴陵会では年齢を85歳とし、なおかつ出さなくても良い規定としました。すなわち、卒後61年以上（85歳以上）の学年では学年評議員を出さなくても可とする規定をもうけました。勿論、これらの学年の会員には会報などを通じて鶴陵会の情報を提供して参ります。

支部活動について

9月に愛媛支部の会合がありました。平成30年7月の西日本豪雨の際に愛媛県大洲市も被害を受け、大洲で活躍しておられる鶴陵会会員の方も被災されました。そこで「大洲市を励ます会」として愛媛支部の会合が開催されました。励ます会と言いながらも、地元の会員のお世話で鵜飼いと屋形船での料理を楽しみました。有り難うございました。

所感

医学部保健学科同窓会作業療法学専攻部会 会長 中村 侑司

私が、鹿児島大学を卒業して12年が経過した。作業療法士という職業柄、実習生の指導を毎年担当する。保健学科作業療法学専攻では、4年生になると6週間の長期臨床実習という実際に病院に出向き、臨床の場で指導者と共に患者の治療にあたる実習がある。6週間という期間は、学生であった時は非常に長く感じたものだが、臨床で働いている今は非常に短く感じる。その短期間で、学生の個性を感じ、作業療法の理解度、患者様との関係性、評価の進行など様々なことを考慮しながら、指導にあたっていく。これは毎年のことで、いい意味でも、悪い意味でも慣れてきた。慣れてきたのだが、実習生のフレッシュな感覚に疎くなってきている自分もいる。臨床に出てすぐの頃は、学生の不安な気持ちも理解できるし、指導者としてしっかりしなければと奮い立つような初々しさがあった。これは自分への戒めでもあるが、そういった感覚が徐々に薄くなっており、忙しさを理由に少しずつ、指導者業務を「仕事」として見ている自分がある。忙しくとも学生の気持ちを大事にという気概を失いかけていたように思う。

実習生は、一旦大学を離れて病院という臨床の場に出た巣立ち雛である。巣立ち雛はすぐに、自立するわけではなく、しばらくは親と過ごし、生きていくのに必要なさまざまなことを学ぶ。子供が生まれ、一つのことのできるまで手取り足取りも必要であり、気持ちを十分に汲んであげることによって精一杯成長しようとする姿を見せることを知った。

生まれたばかりの赤ん坊から、人生を達観したご尊老の方々までが作業療法の対象である。当然、実習生もこの範疇にいる。所感となるが、自分の作業療法観と照らし合わせながら学生の思いを大切に、巣立ち雛が、鹿児島大学という同じ巣から無事に巣立てるように、今後、気持ち新たに指導にあたっていきたいと思う。

歯学部同窓会

平成31年

- 4月5日 鹿児島大学入学式（同窓会事業について新入生・保護者に説明）
- 6日 鹿児島大学同窓会連合会総会に参加
- 21日 鹿児島大学 OB 学部対抗ゴルフ大会 歯学部優勝

令和元年

- 6月19日 歯学部教授会との協議会開催、30日 懇親会開催
歯学部同窓会研究助成金 実施（基礎系、臨床系各1講座へ10万支給）
- 7月13日 歯学部後援会（父兄会）での同窓会事業説明
- 25日 令和元年度 第一回評議員会 開催
- 8月25日 第35回学術連絡会に参加
- 8月30日 同窓会連合会 第一回役員会へ 村上会長・佐藤幹事出席
- 9月14日 歯学部卒後研究会主催 第一回イブニングセミナー開催（小児歯科・口腔生化学担当）
- 9月末 歯学部同窓会会報誌28号 発刊
- 10月6日 第一回 DeeR WOMAN（歯学部同窓会女子会）第一回懇親会開催

歯学部教授会との協議会・懇親会

6月19日鹿児島大学歯学部にて教授会との協議会が行われた。

協議会において、大学側からは、歯学部教授が主体となって設立された南九州歯学会の趣旨や同窓会への協力の依頼、臨床実習先となる協力医院のお願い、同窓会側からは歯学部2講座への研究助成金の実施の報告、同窓会主体で行われる学生の白衣販売に関する協議がなされた。

30日には懇親会がサンロイヤルホテルで行われ、和気藹々の雰囲気の中親睦を深め合った。



工学部同窓会

令和元年度の工学部同窓会の主な活動内容について、ご報告いたします。

(1) 第39回鹿児島大学工学部同窓会大分県支部総会

令和元年6月8日(土)、大分センチュリーホテルにて開催されました。本会は毎年開催されており、工学部のほか法文学部、理学部、農学部の卒業生も参加されています。本年は23名の参加がありました。総会では大石喬支部長(応化S37卒)のあいさつの後、大学から出席した重井徳貴本部編集幹事、審良善和しらなみ会庶務幹事から、同窓会と大学の近況報告がありました。懇親会では、参加者からの近況報告などもあり、世代、出身学科・学部をこえた交流で二次会まで盛り上がりました。



第39回 鹿児島大学工学部同窓会大分県支部総会 令和元年6月8日

(2) 令和元年度鹿児島大学工学部同窓会拡大幹事会・岸園賞選考会・司会

令和元年8月16日(金)にジェイドガーデンパレスにて開催されました。

○拡大幹事会

拡大幹事会では、昨年度の運営報告と今年度の運営計画について審議し、満場一致で承認されました。また、令和2年4月で創立75周年を迎える工学部の鹿児島大学工学部創立75周年記念事業への協力について松永洋文工学部同窓会会長より依頼がありました。

「岸園賞」は、寄付者の岸園司氏のご遺志である「鹿大発展を、工学部同窓会の発展を」という理念のもと、鹿児島大学工学部の名を高めた方、あるいは工学部同窓会活動に尽力した方を表彰するものです。今年度は、推薦が無く、該当者無しということになりましたが、平成23年度からこれまでの表彰は10件になります。

○第8回「司会」

今年度は、平成30年度「岸園賞」受賞者の炭谷圭二氏(機械ⅡS55卒)をお招きし、総勢46名での開催となりました。松永洋文工学部同窓会会長より、「岸園賞」受賞者への表彰状と記念品の贈呈が行われ、炭谷氏より、顕著な業績をあげた自動車の空力分野の研究および車両開発についてご講演をいただきました。その後、木下英二工学部長の乾杯のご挨拶をいただき、懇親会となりました。懇親会は、同窓生の交流を深め、教員同士のコミュニケーションを図り、産学官の連携推進を図る良い機会となりました。

(3) 鹿児島大学工学部関東合同同窓会

令和元年11月30日(土)、東京の三州倶楽部にて開催されました。本会は、関東の工学部同窓会の5つの部会(機友会、錦水会、AOI会、南窓舎密会、しらなみ会)と本部の会員が集い、3年に一度、合同で開催されるものです。当日は、来賓を含め約100名の参加者がありました。総会では、松永洋文工学部同窓会会長が工学部創立75周年記念事業への協力などの同窓会の近況、木下英二工学部長が来年度の改組や75周年記念事業などの近況、今村彬同窓会連合会関東支部長が連合同窓会の近況についてお話しされました。講演会では、鹿児島大学副学長の渡邊睦情報生体システム工学科教授が「未来を拓く知能ロボット・AI技術」について講演されました。その後、懇親会となり部会を越えて親睦を図りました。

(文責：工学部同窓会編集幹事 重井 徳貴)

農学部あらた同窓会

「学生向け講演会」

毎年農学部と共催で行っている「学生会員向け講演会」は、『「海外で経験し、学ぼう」－高等農林学校建学の精神から－』というテーマで行ってきたが、今年は、OBである福山 誠さん（林学科昭和63年卒、国際航業株式会社・海外コンサルティング部）に『「国際協力の現場から」－30年間の経験を通じて考えた途上国支援－』というタイトルでお話をいただいた。福山さんは、1988年に本学農学部林学科を卒業されてすぐに青年海外協力隊でタンザニアに森林経営という職種で3年間派遣され、帰国後国際開発に関わる社団法人や民間企業に所属し、国際協力機構（JICA）や林野庁からの委託による調査事業のコンサルタントやJICA 専門家として海外（ベトナム、カンボジア、ウガンダ、ミャンマー）の現場で活躍された。その間の植林や天然林保全といった実践的な業務経験で学んだことをもとに、村人／農家などの援助の受益者が主体的にプロジェクトに関わるような仕組みを構築すること、人材や資材、制度といったローカルリソースを可能な限り活用すること、活動の持続性・発展性に常に注意を払うことなどが教訓として得られたこと、JICA 専門家やコンサルタントに求められる資質として、①分野・課題専門力、②援助関連知識・経験、③地域関連知識・経験、④問題発見・調査分析力、⑤コミュニケーション力、⑥総合マネジメント力の6つの能力であり、特に重要なのは問題発見・調査分析力、コミュニケーション力、総合マネジメント力の3つであること、などを中心にお話しされた。講演会には卒業後海外協力現場で活躍したい学生も多数聴きにきていて、自分が海外協力に携わる場合の具体的な準備、心構えなどについて活発な質問がなされ、福山さんは誠実に答え・アドバイスをされていた。この講演会の詳細については「農学部あらた同窓会報令和元年度秋季号（学生向け会報、11月23日発行）」に詳細に記載してあります。



講演される福山 誠さん（左）と質問する学生（右）

「農学部あらた同窓会・功労者表彰者の決定」

「農学部あらた同窓会」では、2009年の農学部開学100周年記念事業の実施にあたり「功労者表彰規定」を制定し、5年ごとに役員等として同窓会活動に功績のあった方を表彰しています。今年は第3回の表彰の年に当たることから全国各支部並びに本部事務局に功労者の推薦を依頼し、推薦された候補者について審査を行い9名の受賞者（下記表）を決定しました。表彰式は「農学部あらた同窓会令和元年度総会（農学部開学110周年記念ミニ式典）」で行いました。

鹿児島大学農学部あらた同窓会功労者芳名

| 氏名 | 推薦母体 | 学科・卒年 | 年齢 | 役員歴（功績） |
|--------|------|--------|----|---------------------------------|
| 日高 康孝 | 兵庫 | 獣・昭37 | 85 | 会長7年・副会長3年・常任幹事29年 |
| 山下 高德 | 兵庫 | 農・昭37 | 83 | 副会長10年・幹事23年 |
| 濱脇 吉乃夫 | 岡山 | 農・昭37 | 81 | 支部役員 30年（幹事、副会長、会長） |
| 東 正隆 | 熊本 | 総農・昭38 | 79 | 会長10年・幹事26年 |
| 藤田 晋輔 | 鹿児島 | 林・昭37 | 80 | 本部会長6年・幹事10年・本部運営に功績 |
| 前田 芳實 | 鹿児島 | 畜・昭42 | 75 | 本部顧問3年・会長1年・評議員2年・幹事17年・本部運営に功績 |
| 永田 鉄山 | 鹿児島 | 蚕・昭30 | 87 | 本部評議員25年 |
| 堀之内 達男 | 鹿児島 | 獣・昭33 | 87 | 本部評議員28年 |
| 富永 茂人 | 鹿児島 | 園・昭48 | 70 | 本部顧問3年・常任副会長4年・幹事23年 |

水産学部同窓会魚水会

水産学部の定員は一学年140名で鹿児島大学の中では3番目に少ない学生数です。又、国立大学の水産学部は全国で3つしか無く85%以上の学生は北海道から沖縄まで鹿児島県外からの学生です。そしてその卒業生の90%近くは県外に就職して行きます。魚水会支部は東北から沖縄まで19支部で活動しています。又、昔は水産学部と言えば男子学生ばかりでしたが最近の傾向として女子学生が増加の一途をたどり40%の学生は女子学生です。そのような訳で魚水会も女子会員や若手会員の積極的な参加を呼び掛けています。今度魚水会女子部会も結成されました。

下記は魚水会の年間活動行事などを箇条書きにしてみたいと思います。

1、全国総会及び相談役会、理事会の開催

全国に会員が散らばっている関係で全国総会を鹿児島→福岡→鹿児島→東京→鹿児島→大阪と4都市をローテーションで開催しています。今年令和元年6月8日は鹿児島で開催しました。

次は福岡で開催です。総会の前には専務理事会、相談役会、理事会を開催しています。

2、同窓会報誌『魚水』発行

毎年、年2回（春夏号（お盆前）、秋冬号（正月前後）発行しています。

編集委員には記事や編集が偏らないようにベテラン会員から女性編集委員3名、学生会員2名を含めて23名がボランティアで頑張ってもらっています。そして住所が判っている全会員や教職員はもちろん全学生に配布しています。記事は全国の会員や学生などから募集しています。表紙もの時々のタイムリーな写真を採用しています。

今から25年後の水産学部創立100周年記念事業に際し後輩に基金を少しでも残しておきたい為に次回秋冬号より経費圧縮の為に全員に発送していたのを入会金（現在90%くらいの納付）未納者には配布しないことを総会において決定しました。

3、同窓会名簿作成

今回から名簿専門業者をお願いし新たに魚水会名簿が発行になりました、学生には無償贈呈してします。先輩方がどのような所に就職しておられるか判ると思います、興味が有る人は学生係か魚水会事務局まで問い合わせて貰えます。今まで名簿作成の情報収集や印刷は事務局でやっていました。経費も印刷費や郵送料などで相当な経費を必要としていましたが、今回は会員の方々の支援により業者から逆に入金がありました。

4、『水産学部学術振興基金』の利用

水産学部50周年記念事業として魚水会が創設した『水産学部学術振興基金』も毎年沢山の学生が海外渡航や国内出張の経費の補助などに利用しています。

（水産学部とも打ち合わせして同窓会入会金を納入済みの学生を優先することになっています。）

5、就職教養試験講座の開設

本講座は学生の就職活動支援の一貫として、魚水会より外部講師を招聘し講座を開講し学生の就職活動に利用しています。（今年度は未定）

6、もどっきゃんせDAYの開催

毎年、就職セミナーと合わせて同じ日にもどっきゃんせDAY（ホームカミングデー）を開催しています。現在、全国の第一線で活躍されている水産学部OBを講師に招き講和をいただいています。今年度は11月20日（水）に3.11東日本大震災で壊滅的に被災され劇的に復活した釜石市の『三陸おのや』の小野食品の小野昭夫社長にお願いし200名以上の学生、教職員、卒業生OBが参加し盛大に開催されました。来年度はキューピー(株)の長南収社長にお願いしています。

併せて講演会終了後、水産学部生協食堂にて学生は無料にて懇親会を開催しています。

5、新卒業生への激励

魚水会は新卒業生激励として成績優秀者やスポーツや社会貢献などで活躍している方々に魚水会賞として金一封を添えて表彰し、その栄誉を称えています。（これも入会金納付済の学生限定です）

又、卒業生全員に卒業記念品を贈呈しています。

7、女性部会創設

近年は多くの女子学生が在学、卒業しています。魚水会では同窓会活動の更なる充実を図る為に女性部会を創設しました。女性OBや若い会員の積極的な参加を呼び掛けています。

以上が魚水会の年間ルーティン行事です。

共同獣医学部紫友同窓会

令和元年になり、ここまでの活動等についてご報告します。

1. 事務局会議

5月29日（水）に学部内で事務局会議を開催し、評議員会で審議する議題及び報告事項について検討しました。その後場所を学外に変えて、会長を囲んで懇親会を開催しました。

2. 評議員会

6月29日（土）にジェイドガーデンパレスで評議員会を開催し、議題として、①役員改選、②平成30年度事業報告及び決算、③令和元年度事業計画及び予算（案）について審議され、満場一致で承認されました。特に予算審議の中で、共同獣医学部がEAEVE（欧州獣医学教育機関協会）の公式診断を受ける際に資金面の支援をすることも承認されました。報告事項として、①学部の現況、②同窓会連合会報告、③同窓会のホームページ開設の調査検討開始が報告されました。学部の現況については宮本学部長から説明があり、学部としてグローバル化を積極的に推進しており、6月にEAEVE（欧州獣医学教育機関協会）の公式診断を受け、特段大きな欠点の指摘もなく12月の結果を待っていること、来年にはアメリカの動物福祉の認証機関であるAAALAC インターナショナルより総合動物実験施設が2回目の公式診断を受ける予定であることの紹介がありました。これに先立って3月に大学基準協会の第三者評価により本学の獣医学教育が見事に「適」と評価され基準適合評定証を授与されたこと、また地域貢献にも積極的に協力していることなどが報告されました。会議終了後、西中川駿顧問による乾杯の発声を皮切りに賑やかな懇親会となり、盛会裡に終了しました。

3. 会報5号の発刊

同窓会の会報である「紫友」の第5号を12月に発刊しました。この会報は会員相互の情報共有のツールとして活用してもらうことを目的に、年1回この時期に発刊しています。



動物慰霊碑

昭和36年同窓会の寄付金等により建立され、以来毎年10月に教職員、学生、市民等の参列のもとに動物慰霊祭が執り行われています。共同獣医学部研究棟 B 東側に設置。

▶特別寄稿文◀

砂防、防災に関わる技術者の育成

農学部 教授 地頭 蘭 隆（昭和56年卒）

近年、大雨、台風、地震、火山噴火などによって大きな災害が各地で発生しています。今年（2019年）も、5月の屋久島大雨では登山客300人以上が一時下山できずに山地に孤立、7月には鹿児島県本土が記録的な大雨に見舞われて各地で土砂災害が発生、8月には九州北部で大雨特別警報が出されて洪水災害が発生、そして10月、台風19号により東日本の広範囲に大雨特別警報が出されて大規模な洪水災害や土砂災害が発生しました。九州では、2018年の霧島の新燃岳や硫黄山の噴火災害、大分県中津市耶馬溪町の大規模崩壊による土砂災害、2017年は福岡・大分県の九州北部豪雨災害、2016年は熊本地震災害や大隅半島の台風16号災害、2015年は口永良部島の噴火災害や垂水市深港の土石流災害など、大きな災害が連続しています。災害が発生すると、その原因や発生機構を調査し、緊急対応や復旧対策が求められます。私の研究室の学生は、砂防、防災に関わる技術者として将来災害対応に従事することになります。そのために自然環境を多面的に理解し、そこで生じる様々な自然現象を予測できる実践的な能力を培う必要があります。野外での実践的な調査・観測に基づいた防災への取り組みに関する研究室の活動例を紹介します。

2015年6月から7月にかけて、垂水市深港において地下水が関与した崩壊と土石流が繰り返し発生しました（図1）。崩壊斜面には火山活動に伴う堆積物が幾層も重なっており、複数の地層から多量の湧水がみられました。湧水出口付近が侵食されると上部層が不安定化して崩壊し、多量の地下水を含んで土石流となりました。崩壊は雨が止んで長時間が経過してから発生するため、住民の警戒避難対応が困難な状況でした。そこで、崩壊地を監視しているカメラの映像を用いて湧水流量を測定すると減水割合が非常に小さかったので、警戒避難基準に40日という半減期の長い実効雨量を採用したところ、崩壊発生前に住民を避難させることができました。研究室メンバーは、解析結果が住民避難に役立ち、地域防災力の向上に貢献したことを実感する機会となりました。

2018年4月11日、大分県耶馬溪町において、雨のないときに突然大規模な崩壊が発生して6人が亡くなりました（図2）。崩壊斜面からは多量の湧水がみられ、湧水出口付近の地下水排水システムの破壊により地下水圧が徐々に上昇したか、あるいは、湧水出口付近で侵食が続いた結果、大規模な崩壊が引き起こされたと考えられました。研究室メンバーで実施した水文調査の結果、湧水流量は地形的集水域では説明できず、水文的集水域に規制された広範囲の地下水が集中して崩壊が発生したことが明らかになりました。

最近の土砂災害をみると、明らかに大規模な土砂移動現象が多発しています。気候変動等の影響による集中豪雨、局地的大雨、大型台風等の増加に伴って、これまでに経験したことがない大規模な土砂災害の発生リスクが各地で高まっています。降水予測の精度がさらに高まれば、予測される降水量に合わせて土砂災害の警戒区域の範囲や警戒体制のレベルを設定する仕組みも必要になるかもしれません。たとえば、「今後400mmを超えるような大雨が予想される」等が発表された場合は、警戒区域や警戒体制を拡大して大規模災害に備える、同時に住民にどのような対応を求めるか、などを具体的に検討する時代に入ったと思っています。研究室の学生たちは、このような社会的背景を肌で感じ、大規模土砂災害を引き起こす土砂移動現象の発生場所と発生時期の予測研究に取り組んでいます（図3）。

砂防、防災に関わる技術者の育成では、講義により基礎学力を身につけ、自然環境を把握する実践的な教育によりその知識を応用していくことが重要です。地域で学んだことは地域に還元するという姿勢を研究室の学生同士で共有し、先輩から後輩へ受け継がれています。さらに、卒業生はその精神をもって社会で活躍していることをうれしく思います。



図1 2015年に垂水市で発生した崩壊と土石流



図2 2018年に大分県耶馬溪町で発生した大規模崩壊



図3 大規模崩壊発生予測のための水文調査

▶特別寄稿文◀

鹿児島大学 OB 学部対抗ゴルフ大会と全学部同窓会懇談会の関係 (魚水会ゴルフ大会から鹿大全学部ゴルフ対抗戦へ)

今年で第39回を迎える鹿児島大学 OB ゴルフ大会(当時は OB 対抗戦と言った)の出来た経緯(別表参照)

- ① 今から56年くらい前、水産学部の若い卒業生が南水会(魚水会に反旗を翻した訳ではなく、気軽に集まろうとの趣旨)を作りソフトボールや同窓会懇親会などをしていった。(南水会のユニフォームも作り南日本ナイターソフトボール大会にも出場)
- ② 昭和52年(1977)に20名くらいで第1回南水会ゴルフコンペを始める。年4~5回くらい
- ③ 翌年昭和53年(1978)頃、面白そうだからと先輩の西督平氏達なども参加。
- ④ 全世代を入れてゴルフコンペをするようになり、名前を魚水会ゴルフコンペに。
- ⑤ 昭和55年(1980)頃、水産 VS 農学部、水産 VS 工学部、水産 VS 文理など二学部対抗を始める。
- ⑥ 昭和56年(1981)水産 VS 文理の対抗戦をカップも作り15名ずつで対戦。
第27回魚水会ゴルフコンペと並行。(当時の第27回ゴルフコンペの案内はがき資料保存)
- ⑦ 昭和57年(1982)3月7日魚水会ゴルフコンペを拡大し二学部だけでなく希望学部を募ると七学部体制で第1回鹿児島大学 OB 対抗ゴルフ大会がかごしま空港36カントリークラブで始まる。
大会会長は石神兼文学長、実行委員長は西督平氏(旧制四高、水産学部卒)、優勝は工学部。
- ⑧ 第3回昭和59年(1984)より南日本新聞社にお願いして幹事会社になって貰い今日に至る。
- ⑨ 昭和60年(1985)今から34年前、「このようなゴルフ大会が無いと鹿児島大学を卒業しても別々の学部の OB は一生会うことは無い、これを拡大して全学部同窓会懇談会をやろうではないか」と石神学長及び大学関係者や各 OB から声が高まり学長の時間が取れやすい入学式の日にする事になり、第1回鹿児島大学全学部同窓会懇談会が始まった。(今は入学式のあった週末)
- ⑩ 昭和61年(1986)第5回大会から鹿児島大学教官チームも13名で初参加。
- ⑪ 第7回昭和63年(1988)より前年学長に就任された井形昭弘学長もゴルフを始め初参加。
- ⑫ 第8回平成元年(1989)より七高会13名が初参加、七高 OB で前の鹿児島県知事で参議院議員の鎌田要氏が名誉会長に就任。
- ⑬ 第9回平成2年(1990)より本部職員チームが18名で初参加。
- ⑭ 第10回平成3年(1991)より歯学部初参加で10チームになる。(法文・理学部は1チーム、教職員1チーム)
- ⑮ 平成4年(1992)2月 西督平実行委員長が63才で逝去。
- ⑯ 第11回平成4年(1992)より空港36CCより蒲生カントリークラブに換わり今日に至る。三角桂次郎氏(ミスミ会長、文理卒)が二代目実行委員長に。
- ⑰ この間、毎年鹿児島大学全学部同窓会懇談会は続いていて、平成15年(2003)には第19回鹿児島大学全学部同窓会懇談会が開催された。(次の年から鹿児島大学同窓会連合会懇親会へ)
- ⑱ 大学独立法人化に伴い、全国の国立大学で同窓会連合会が結成された。平成19年(2007)鹿児島大学は初代連合同窓会会長に江口正純氏が就任し第1回鹿児島大学連合同窓会が結成され、総会の後に懇談会も例年のように開催され現在に至る。(名称は懇親会)
ゴルフ大会名誉会長の鎌田要氏が逝去され、第26回平成19年(2007)より工学部 OB の稲盛和夫氏が名誉会長に就任された。
- ⑲ 三角桂次郎氏のご逝去により1年間医学部 OB の美坂幸治氏が実行委員長になられたが次の年第24回平成17年(2005)よりから第4代 OB ゴルフ大会実行委員長に江口正純氏(文理学部卒)が就任。
- ⑳ 第30回平成23年(2011)より名称は競争的な対抗と言う名前をやめて鹿児島大学 OB ゴルフ大会に変更し現在に至る。

★平成16年(2004)全国の国立大学は法人化され、同窓会の協力を得る為と結束の為に同窓会連合会が結成されたが、ほとんど大学は有名無実、鹿児島大学連合同窓会が一番活発です。

これは初代江口正純会長の指導力は大きなものが有りました。

前述のように総合大学で全学部対抗ゴルフ大会が全国唯一長年継続し、それから派生した全学部同窓会懇談会の存在も大きかったと思います。

★第1回大会 OB ゴルフ大会から毎年、鹿児島大学へ援助金を寄付して来ました、今後とも鹿児島大学と鹿児島大学連合同窓会、鹿児島大学 OB ゴルフ大会が盛んになることを祈ります。

鹿児島大学 OB ゴルフ大会が出来るまでとその後の経緯

| | S50 | 1975 | 魚水会の若い人達で作った南水会でソフトボールや懇親会をやっていた。 | | | | | | | |
|------|-----|------|--|------|------|-------|-------|------|-----|------------------------|
| | S51 | 1976 | 懇親会は年に5回くらい50名くらい。南日本ソフトボールにユニフォームを作り出場。 | | | | | | | |
| | S52 | 1977 | 南水会ゴルフ大会を20名くらいで始めた、年間5回くらい開催。 | | | | | | | |
| | S53 | 1978 | 南水会も年配の西督平さん達も入りたいとのことで拡大して行く。 | | | | | | | |
| | S54 | 1979 | 南水会ゴルフコンペから魚水会ゴルフコンペに名称変更。蒲生、空港、錦江などで | | | | | | | |
| | S55 | 1980 | 水産学部と農学部、工学部などと対抗戦。 | | | | | | | |
| | S56 | 1981 | 第27回魚水会ゴルフコンペは文理との対抗戦、その後は全学部 OB ゴルフ大会へ | | | | | | | |
| 大会 | 開催年 | | 開催日 | 名誉会長 | 大会会長 | 実行委員長 | ゴルフ場 | 優勝学部 | 人数 | 備考 |
| 第1回 | S57 | 1982 | 3/7 | | 石神兼文 | 西督平 | 空港36 | 工学 | 157 | 法文・理学部含め7学部で鹿大対抗戦が始まる |
| 第2回 | S58 | 1983 | 4/17 | | 石神兼文 | 西督平 | 空港36 | 医学 | | |
| 第3回 | S59 | 1984 | 4/8 | | 石神兼文 | 西督平 | 空港36 | 工学 | 167 | 南日本新聞社を幹事会社に要請する。 |
| 第4回 | S60 | 1985 | 4/21 | | 石神兼文 | 西督平 | 空港36 | 法文 理 | 135 | 第1回全学部同窓会懇談会始まる |
| 第5回 | S61 | 1986 | 5/11 | | 石神兼文 | 西督平 | 空港36 | 法文 理 | 127 | 教官チーム13名初参加 |
| 第6回 | S62 | 1987 | 4/19 | | 井形昭弘 | 西督平 | 空港36 | 医学 | 124 | |
| 第7回 | S63 | 1988 | 5/1 | | 井形昭弘 | 西督平 | 空港36 | 医学 | 136 | 井形学長初参加 |
| 第8回 | H 元 | 1989 | 4/16 | 鎌田 要 | 井形昭弘 | 西督平 | 空港36 | 工学 | 177 | 七高会13名初参加 |
| 第9回 | H2 | 1990 | 4/22 | 鎌田 要 | 井形昭弘 | 西督平 | 空港36 | 医学 | 182 | 本部職員18名初参加 |
| 第10回 | H3 | 1991 | 4/21 | 鎌田 要 | 井形昭弘 | 西督平 | 空港36 | 医学 | 257 | 歯学部20名初参加、10チーム |
| 第11回 | H4 | 1992 | 4/19 | 鎌田 要 | 井形昭弘 | 三角桂次郎 | 蒲生 CC | 教育 | 248 | 西督平氏2月逝去、この回から蒲生 |
| 第12回 | H5 | 1993 | 4/18 | 鎌田 要 | 早坂祥三 | 三角桂次郎 | 蒲生 CC | 工学 | 260 | |
| 第13回 | H6 | 1994 | 6/5 | 鎌田 要 | 早坂祥三 | 三角桂次郎 | 蒲生 CC | 工学 | 236 | 第10回全学部同窓会懇談会 |
| 第14回 | H7 | 1995 | 5/28 | 鎌田 要 | 早坂祥三 | 三角桂次郎 | 蒲生 CC | 工学 | 228 | |
| 第15回 | H8 | 1996 | 4/21 | 鎌田 要 | 早坂祥三 | 三角桂次郎 | 蒲生 CC | 教育 | 250 | |
| 第16回 | H9 | 1997 | 4/20 | 鎌田 要 | 田中弘充 | 三角桂次郎 | 蒲生 CC | 工学 | 265 | |
| 第17回 | H10 | 1998 | 4/19 | 鎌田 要 | 田中弘充 | 三角桂次郎 | 蒲生 CC | 水産 | 254 | |
| 第18回 | H11 | 1999 | 4/18 | 鎌田 要 | 田中弘充 | 三角桂次郎 | 蒲生 CC | 教育 | 210 | |
| 第19回 | H12 | 2000 | 4/16 | 鎌田 要 | 田中弘充 | 三角桂次郎 | 蒲生 CC | 教育 | 216 | |
| 第20回 | H13 | 2001 | 4/15 | 鎌田 要 | 田中弘充 | 三角桂次郎 | 蒲生 CC | 本部職員 | 198 | |
| 第21回 | H14 | 2002 | 4/14 | 鎌田 要 | 田中弘充 | 三角桂次郎 | 蒲生 CC | 教育 | 165 | |
| 第22回 | H15 | 2003 | 4/20 | 鎌田 要 | 永田行博 | 三角桂次郎 | 蒲生 CC | 教育 | 183 | 第19回鹿大全学部同窓会懇談会 |
| 第23回 | H16 | 2004 | 4/18 | 鎌田 要 | 永田行博 | 美坂幸治 | 蒲生 CC | 教育 | 199 | 第1回鹿大連合同窓会結成 |
| 第24回 | H17 | 2005 | 4/17 | 鎌田 要 | 永田行博 | 江口正純 | 蒲生 CC | 教育 | 185 | 連合同窓会総会の後、懇親会 |
| 第25回 | H18 | 2006 | 4/16 | | 永田行博 | 江口正純 | 蒲生 CC | 法文理 | 230 | |
| 第26回 | H19 | 2007 | 4/22 | 稲盛和夫 | 吉田浩己 | 江口正純 | 蒲生 CC | 教育 | 236 | |
| 第27回 | H20 | 2008 | 4/20 | 稲盛和夫 | 吉田浩己 | 江口正純 | 蒲生 CC | 教育 | 225 | |
| 第28回 | H21 | 2009 | 4/12 | 稲盛和夫 | 吉田浩己 | 江口正純 | 蒲生 CC | 教育 | 211 | |
| 第29回 | H22 | 2010 | 4/18 | 稲盛和夫 | 吉田浩己 | 江口正純 | 蒲生 CC | 教育 | 216 | |
| 第30回 | H23 | 2011 | 4/17 | 稲盛和夫 | 吉田浩己 | 江口正純 | 蒲生 CC | 教育 | 214 | OB 対抗ゴルフ大会から OB ゴルフ大会へ |
| 第31回 | H24 | 2012 | 4/15 | 稲盛和夫 | 吉田浩己 | 江口正純 | 蒲生 CC | 教育 | 198 | |
| 第32回 | H25 | 2013 | 4/21 | | 前田芳實 | 江口正純 | 蒲生 CC | 工学 | 198 | |
| 第33回 | H26 | 2014 | 4/20 | | 前田芳實 | 江口正純 | 蒲生 CC | 教育 | 216 | |
| 第34回 | H27 | 2015 | 4/19 | | 前田芳實 | 江口正純 | 蒲生 CC | 教育 | 216 | |
| 第35回 | H28 | 2016 | 4/17 | | 前田芳實 | 江口正純 | 蒲生 CC | 歯学 | 206 | |
| 第36回 | H29 | 2017 | 4/23 | | 前田芳實 | 江口正純 | 蒲生 CC | 工学 | 210 | |
| 第37回 | H30 | 2018 | 4/15 | | 前田芳實 | 江口正純 | 蒲生 CC | 教育 | 222 | |
| 第38回 | H31 | 2019 | 4/21 | | 佐野 輝 | 江口正純 | 蒲生 CC | 歯学 | 200 | 第16回鹿大連合同窓会総会 |

キャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生2019！」

日 時 2019年12月7日（土）14：00～16：30

場 所 【第1部】学習交流プラザ2F 学習交流ホール 【第2部】学習交流プラザ2F 学習ラウンジ3・4

| | | |
|-------|----------|--|
| 司 会 | 尾上 昌平 氏 | 鹿児島大学研究推進機構研究支援センター技術専門職員 (2000年理学部卒業・2019年理工学研究科博士課程単位取得退学) |
| 趣旨説明 | 高原 要次 氏 | ラーニングシステムズ（株）代表取締役社長（1972年法文学部卒業） |
| ゲ ス ト | 久保 正和 氏 | 元鹿児島市立田上小学校校長、前鹿児島県連合校長協会事務局長 (1964年教育学部卒業) |
| | 樺山 美喜子 氏 | (株)鹿児島放送報道情報センターニュース編集長（1994年理学部卒業） |
| | 松田 史代 氏 | 鹿児島大学医学部保健学科理学療法学専攻助教 (2004年医学部卒業・2010年保健学研究科博士課程修了) |
| | 池澤 和広 氏 | 鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部研究専門員 (1990年農学部卒業・2015年連合農学研究科修了) |
| | 國師 恵美子 氏 | 鹿児島大学水産学部附属海洋資源環境教育研究センター助教 (2006年水産学部卒業・2008年水産学研究科修了・2011連合法学研究科修了) |

2019年12月7日（土）、キャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生2019！」が開催されました。5回目となる今回は、鹿児島県内の各分野でご活躍中のOB・OGの皆様をゲストにお迎えし、先輩スピーカーを務めていただきました。

オープニングでは、2015年スタート時の企画・運営にあたった高原要次氏より、本セミナーに寄せる先輩の思いを込めながら、セミナー立ち上げに至った経緯やエピソードなどを交え、「学生生活を送るにあたって、就職活動に関し、これからの人生でヒントになるであろう経験談を語る。」ことを目的とするとの趣旨説明がありました。

第1部の全体セッションでは、各ゲスト1人ずつ自己紹介をしていただき、第2部の座談会では、各ゲストを囲んで5グループに分かれ、これまでの経歴や失敗談、経験から学んだこと、後輩たちに伝えたいことなどをお話いただきました。ゲストの職業は様々ですが、社会人の先輩として、時間の許す限り参加者の質問に答え、一緒に考え、アドバイスしていただきました。

クロージングでは、各ゲストから感想が述べられ、参加者の皆さんの自分の将来に向けた真剣さや熱意を感じたこと、学生さんと接して初心を思い出すとともに自らの学びにもなったこと、学生時代に旅行などを通じて様々な経験をして欲しいこと等のコメントがありました。

また、枚田邦宏就職支援センター長より、ゲストの皆様全員に対し、鹿児島大学名誉キャリアサポーターの委嘱状が授与されました。

最後に、富永茂人同窓会連合会会長より挨拶があり、学生の皆さんには自分の考えを持てる人材となって欲しいこと、鹿児島で学ぶ皆さんは地方から中央を見る視点を持つことを自覚しその有利さを活かして羽ばたいて欲しいこと、本セミナーが今後も続いていくよう同窓会としても支援していきたいこと等が述べられ、本セミナーを締めくくりました。



鹿児島大学同窓会連合会総会 ならびに 懇親会～卒業生の集い～開催のお知らせ

鹿児島大学同窓会連合会では、毎年入学式後の最初の土曜日に総会ならびに懇親会～卒業生の集い～を開催しています。旧友や先輩・後輩との久しぶりの再会に話も弾み、和やかな雰囲気の中、さらにお互いの親睦を深める会となっています。卒業生であればどなたでも大歓迎ですので是非ご参加ください。参加ご希望の際は、各学部同窓会事務局へご連絡ください。

記

令和2年度 総会ならびに懇親会～卒業生の集い～

期 日：令和2年4月11日（土） 於：SHIROYAMA HOTEL kagoshima

時間・会場：総 会 16時～17時 4F パール

懇親会 18時～20時30分 3F サファイア

参 加 費：6,500円

*上記を予定しておりますが、変更される場合がございます。詳しくは
同窓会連合会 HP <https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/> をご覧ください。

〈2019年度の様子〉



懇親会



工学部 近況報告



医学部 近況報告



共同獣医学部 近況報告

参加者募集

初心者歓迎



第39回

鹿児島大学 OB ゴルフ大会

開催日 令和2年4月19日(日) 午前7時30分頃スタート

場所 蒲生カントリークラブ(桜島コース・霧島コース・祁答院コース)
始良市蒲生町米丸2448 TEL0995-52-0381

参加費 2,500円

その他 各学部出場者のうち上位半数の平均ネットスコア(ダブルペリア方式)で順位を決定する。

*昨年度成績 団体優勝:歯学部 団体2位:教育学部

(今回もセルフプレーでの参加もできます。ご希望の方はお申し込みの際、各学部実行委員へお申し出ください。)

募集締切 令和2年3月20日(金・祝) 募集定員300人

お問い合わせ先

同窓会連合会のホームページをご覧ください

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/>

学部別実行委員

| | | | |
|--------|-------------|-------------|------|
| 水産 | TEL286-4080 | fax286-4080 | (辻口) |
| 農・共同獣医 | TEL285-8690 | fax285-8690 | (平) |
| 医 | TEL812-1133 | fax812-1677 | (上野) |
| 法文・理 | TEL254-7111 | fax254-7101 | (大重) |
| 教育 | TEL254-9664 | fax254-9664 | (山元) |
| 歯 | TEL286-6480 | fax286-4484 | (濱崎) |
| 工 | TEL285-3408 | fax285-3408 | (淵田) |
| 本部職員 | TEL286-4111 | fax286-4015 | (西元) |

同窓会連合会事務局

(総務部総務課基金・渉外係) TEL 099-285-3101

FAX 099-285-7034

E-mail: kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

(開局日: 平日 8:30~17:15)

懐かしい顔ぶれと共に、珍プレー好プレー続出です!一緒に楽しみましょう!!



鹿児島大学同窓会連合会事務局並びに各学部同窓会の連絡先

鹿児島大学同窓会連合会事務局

〒890-8580
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-7034
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学歯学部同窓会

〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学歯学部内
鹿児島大学歯学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-264-1600
e-mail kashidousou@po2.synapes.ne.jp

鹿児島大学法文学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-30
鹿児島大学法文学部同窓会事務局
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学工学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-40
鹿児島大学工学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3494
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

鹿児島大学教育学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
鹿児島大学教育学部事務局内
TEL・FAX 099-285-7718
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8537
e-mail arataikai@mc2.seikyounet.jp

鹿児島大学理学部同窓会南明会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-35
鹿児島大学理学部同窓会事務局
TEL 099-285-8925
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学水産学部同窓会

〒890-0056
鹿児島市下荒田4-50-20
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局
TEL・FAX 099-286-4080
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学医学部同窓会

〒890-0075
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3538/8711 (FAX 兼用)
e-mail k2088185@kadai.jp

鹿児島大学 同窓会連合会

〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-7034
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

印刷 斯文堂株式会社

〒891-0122 鹿児島市南栄2丁目12-6
TEL 099-268-8211 FAX 099-269-5198
e-mail info@shibundo.jp